

妊婦さん、生肉・生ハムは避けて下さい

寄生虫のトキソプラズマに感染しないために

妊娠中、生肉・生ハムなどについている寄生虫トキソプラズマに感染すると、胎児の発達が遅れたり、脳神経に障害が出たりすることが時にあります。しかし、妊婦は感染しても何の症状も現われないか、数週間、風邪を引いたかなと思うくらいで終わります。

このトキソプラズマ症とはトキソプラズマによる原虫感染症のことです。世界人口の3分の1が感染していると推測されているほど一般的なもののようです。ただ、胎児、幼児、臓器移植を受けた人、エイズ患者など、免疫抑制状態にある場合には重症化することがあります。

子どもの場合、生後1~2年で症状が顕在化して、「先天性トキソプラズマ症」と診断されることがあります。A子さんの長女は現在、半身にまひが現われています。A子さんは妊娠4ヶ月のころ焼肉店で好物のユッケやレバ刺しを食べました。そのほぼ2週間後、リンパ節が腫れたけれど風邪かなと思ったくらいで病院にも行きませんでした。長女の生後1ヶ月に病院で母子の血液から感染時期を調べたところ、生肉を食べた時期と一致しました。だから、あの生肉による感染の可能性が高いと診断された次第です。この場合、お母さんは妊娠6ヶ月までは順調でしたが、9ヶ月目あたりで胎児の脳室が肥大していることが分かりましたが、どうしようもなかったのです。

そもそもこのトキソプラズマは哺乳類と鳥類に感染する単細胞の寄生虫で、肉眼では見えない大きさ、卵はネコ科の動物の腸管の中でのみ生成されることが分かっています。だから、感染したネコのフンに触ったり、土いじりしても感染の危険性はあるとされていますが、先に書いた感染した牛や豚の生肉を食べても感染することがあります。

ある検査機関によれば、食肉用の牛の6、5%、豚の5、2%がトキソプラズマの抗体検査で陽性と判断されました。トキソプラズマは65°以上、15分以上で加熱（冷凍処理なら-20°・24時間）で死滅します。だから表面が焼けた肉でも中まで火が通っていないと危険性がありますので用心しなければなりません。（去年6月、福井県を始めとして富山、横浜など、焼肉チェーン店と和牛ユッケによる集団食中毒が発生し、5人以上が亡くなりました。肉の表面についていた腸管性出血大腸菌0111によるものと判明しましたが、表面を削り取る〈トリミングする〉ことを怠ったせいと報道されましたが、食中毒の場合はすぐに外に現われるのですが、トキソプラズマはかなりのタイムラグがあるので分かりにくいのです）。

ある推計では、全国で年間500人くらいが妊娠中に感染して

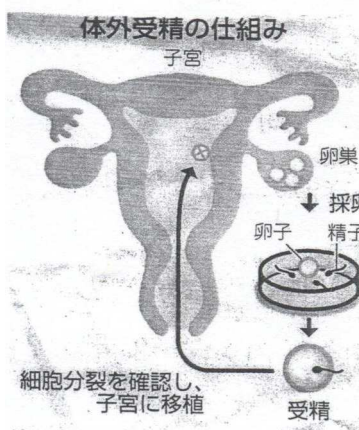
いるとされています。母子感染はそのうち3割くらいで、障害児として生まれる子は10人くらい、出生時に異常がなくても後に発達障害、脳神経障害、視力障害や身体のみなどがでる場合があります。

食の欧米化で生ハムなどが普及し、生肉への抵抗も薄れてきています。このトキソプラズマの場合は特に妊娠中の女性だけが注意すれば避けることができることなので、危険性は極めて薄いものとはいいながら、万一のことを考えてご用心されるのはいいことでしょう。

【トキソプラズマ】 1) 動物の細胞内に寄生して無性生殖により増殖するが、消毒液や胃酸ですぐ死滅する。但し、眼や鼻の粘膜や外傷から感染することがある。 2) 脳や筋肉の組織に厚く丈夫な袋に包まれ形で生存する。この袋をシスト(cyst=無性で袋の中のサナギのような存在)と呼ぶが、外に取り出しても室温でも数日、4°なら数ヶ月生存している。 3) 終宿主のネコ科の動物に感染すると有性生殖を行い、オーシスト(oocyst=オス・メス一体となり虫の卵のような存在)を形成する。

【アドバイス】 ネコのフンのトキソプラズマは排出されたばかりでは感染能力がなく、24時間から3週間経って感染能力をもつ。よって、すぐフンの始末をすればケケンはありません。妊娠したらネコを飼ってはいけないと言うのは間違っています。

《不妊治療のこと》本紙No171(平成22・6.25発行)に院長が「WHOヒト生殖プログラム科学技術アドバイザー」という講演会(平成22.6.19 於、福井市)を聴きに行き、現在おかれている世界の(あるいは日本の)不妊手術の問題を同業医師仲間と語り合い大変有益だったという話を載せましたが、



この体外受精を世界で初めて成功したロバート・エドワーズ氏がこの4月10日に亡くなりました。87歳。彼はイギリス人で1955年から体外受精の研究に取り組み、1968年、試験管の中での受精に成功、1978年、不妊に悩む夫婦の依頼で妻から採取した卵子に夫の精子を加えて子宮に戻し、世界で初めて、体外受精の子どもを誕生させました。その功績により2010年ノーベル医

学・生理学賞を受賞しておられます。しかし、このことは当時、倫理面や宗教界などから厳しい批判を受けましたが、今や世界中で推計400万人以上が体外受精で誕生したとされています。日本では2010年、29000人になりました。

＜あとがき＞ 当院、待合室のミニギャラリーは現在、山本美代子さん(わかさ町小原)の押し花と併せて俳句の短冊です。来月からは他に入れ替えますので良くご覧下さい。